



## 紀見峠駅



紀見峠駅【上左の画像】は、大阪府から峠を越えてきたところの、県内最初の小駅である。この駅唯一の改札内に、「やぎの箱」があった【上中・右の画像】。

## 林間田園都市駅



林間田園都市駅は、大規模に開発された地区の中心であり、ここで折り返す列車もある。そんな駅の改札は一つしかないが、山を削って通した線路の両側へ出入が可能な構造となっている。

西側【左の画像】は駅前広場が整備され、東側は一応出入りもできるといった造りであるが、駅内および駅前に物件がないことを確認せざるを得なかった。

## 御幸辻駅



御幸辻駅【上左の画像】もまた、各駅停車専用の小駅である。高架にある乗場から改札へ降りると、その外にやぎの箱が見つかる【上中の画像】。物件は紀見峠駅のものと同型であり、ある程度まとめて設置事業がなされたことを窺わせる。駅は無人であり、監視カメラが散見される。そんな改札前の白ポストがどのように利用されているかを、南海電鉄は知っている。

大阪市を外れてから古市までのあたりと、古市以遠の区間に分け、それぞれを上図1<sup>21</sup>・2<sup>22</sup>に示す。図中にある通り、この路線は府県を越える。



最初に訪れたのは、藤井寺市の土師ノ里駅【上左端の画像】である。このあたりから地形に起伏が始め、駅は掘割状の構造で、改札は地平面にある。次の道明寺駅【上左から二番目の画像】は単純な構造である。そして羽曳野市に入ると古市駅【上右から二番目の画像】に至る。いずれの駅にも白ポストは見られない。ただ、古市駅には、市の図書館の出張所的な能書きで、本が置かれていた【上右端の画像】。悪書を追放するより良書を広めるといふことなのだろうか。

その次の駒ヶ谷駅【上左端の画像】にも、ない。峠道に入り、両側に改札設備がある上ノ太子駅【上左から二番目の画像】も同様である。ここまでが、大阪府羽曳野市である。次の二上山駅【上右から二番目の画像】からは、奈良県に入る。この線唯一の香芝市の駅であるここも、物件については同様である。その次は葛城市の二上神社口駅【上右端の画像】であるが、こちらにも、ない。やはりこの地域に白ポストは現存していないのだろうというおおよその推測は、ここまでも十分可能である。だが、調査は念のため続行された。



<sup>21</sup> 国土地理院地図(<http://maps.gsi.go.jp/?11=34.542055,135.649223&z=13&base=std&ls=re lief%2C0.17&vs=c0j010u0>)の一部を使用し、駅名を書き加えた。

<sup>22</sup> 国土地理院地図(<http://maps.gsi.go.jp/?11=34.503303,135.737457&z=13&base=std&ls=re>

- 画像と言及あり
- 現地調査報告あり
- 言及あり

